

同志社大学アドミッション・ポリシー運用ガイドライン

1. 目的

本運用ガイドラインは、「同志社大学教育の3つのポリシーを策定するための基本方針」（以下「基本方針」という。）に基づき、アドミッション・ポリシー（以下「AP」という。）を実質的かつ実効的に運用することを目的として策定する。AP は、本運用ガイドラインに従って策定・運用し、恒常的な教育改善の指針として活用する。

2. 策定単位について

策定単位は「基本方針」に定めるとおりとする。

3. 記述方法・記述内容について

策定方針は「基本方針」に定めるとおりとする。

■求める学生像

- ・前文として、どのような人物を養成することを目的として求める学生像を定めるのかを記述する。
- ・ディプロマ・ポリシー（以下「DP」という。）及びカリキュラム・ポリシー（以下「CP」という。）を踏まえた内容とする。
- ・学部学科、国際教育インスティテュート、大学院研究科専攻が求める能力や資質、人物像について、学力を構成する「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の3つの要素（以下「学力の三要素」という。）を念頭に、どのような能力をどのレベルで求めているかを具体的に記述する。

■高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと

- ・高等学校段階までの学習で身に付けて欲しい事項について教科や科目別に、その必要とする背景も含めて具体的に記述する。

■入学者選抜制度

- ・前文として、多様な学生を具体的にどのように選抜するのかを記述する。
- ・入試区分別に「入学者選抜における評価方法」や複数の評価方法を用いる場合は「それぞれの評価方法の比重」等を具体的に記述する。

<全般的な留意事項>

- ・文字数は、「学力の三要素別」、「高等学校段階までの学習で身に付けて欲しい事項の教科や科目別」、「入試区分別」に、100字～500字程度を標準とする。
- ・「です・ます調」の表現を基本とする。
- ・高校生（受験生）や保護者が理解しやすく、魅力を感じる内容・表現とする。

4. 運用について

- (1) DP・CP との一貫性・整合性を担保しながら、入学者選抜の適正な機能を検証するための指針として活用し、自己点検・評価活動において不断の見直しと改善を行う。この過程を通じて、入学者選抜の内部質保証を実質化する。
- (2) AP の実運用により得られる検証結果は、自己点検・評価活動、認証評価における根拠提示等に援用する。

5. 公開について

同志社大学のウェブサイト、入学試験要項等で公開する。

6. 改訂等について

学部学科、国際教育インスティテュート、大学院研究科専攻において、不断の見直しを行い、必要に応じて記述改訂を行う。改訂に係る相談、改訂後の報告等については、入学課が窓口を務める。

以 上